7 月 18 日のメッセージ

聖書：ローマの信徒への手紙　9：　19 – 28

「憐れみの器として」

神がイスラエルを選ばれたことは確かなことです。しかし、それは他の人々が救われないということを意味しません。イスラエルは自分たちが「選ばれている」という確信の下、安心して神の約束の実現を待ち望んでいました。時に、この「選ばれている」という感覚は特権意識と結びつき、他者を排除してきたのもまた事実です。

神がイスラエルを選ばれた時、他の民を滅ぼされはしませんでした。

神はアブラハムを選び、その子孫が数多くなり、繁栄することを約束されました(「神は更に、語りかけて言われた。『これがあなたと結ぶわたしの契約である。あなたは多くの国民の父となる。あなたは、もはやアブラムではなく、アブラハムと名乗りなさい。あなたを多くの国民の父とするからである。』」創世記 17:3-5)。イサクが生まれた時、もちろん神はイサクを顧みられましたが、神のまなざしが届く範囲はイサクだけに留まりません。イシュマエルのことも顧みられ、一つの大いなる国民とするとの約束もされました(「しかし、あの女の息子も一つの国民の父とする。彼もあなたの子であるからだ。」創世記 21:13)。イスラエルに敵対する者たちも、実際には滅ぼし尽くされはしませんでした。だから、イエスの時代であっても、イスラエルの他に多くの人々が暮らしていたのです。その全てが神の救いの対象です。

神が喜ばれるのは、神に立ち帰る者です。神の言葉に聞き、神の思いに応える者です。だから、神の救いの範囲が限定されることがあってはなりません。神は全ての者が立ち帰り、神の思いが実現されることを望んでおられます。東西南北、全ての垣根を越えて、人間がともに手を携え、助け合って生きることを望んでおられるのです(「言っておくが、いつか、東や西から大勢の人が来て、天の国でアブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席に着く。」マタイによる福音書 8:11)。

神の救いは真実です。神の約束は確実です。神の栄光は人の隔てを超えて全ての人々に届きます(「国々は主の御名を恐れ／地上の王は皆、その栄光におののくでしょう。」詩編 102:16)。神の義の実現は、他者の排除によって実現されるものではありません。「自分さえ良ければ」という思いを超えたところで、初めて実現されていくものです。

それを体現されたのがイエスでした。イエスの中に満ちているのはわがままや欺瞞、傲慢ではなく、柔和と謙遜です(「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」マタイによる福音書 11:29)。それらに加えて、他者の痛みに寄り添う憐れみに満ちています。だからイエスは差別されている者、排除されている者のところに近づき、寄り添われました。

イエスの歩まれた道を共に歩もうと神は私たちに呼びかけておられます。私たちも憐れみの器として選び出されているのです(「神はわたしたちを憐れみの器として、ユダヤ人からだけでなく、異邦人の中からも召し出してくださいました。」ローマの信徒への手紙 9:24)。